

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書2章1-12節＞

1 神様の新しい創造の業、御子の誕生。そこから聞くことが大事。

不思議極まりない出来事、クリスマス。でもそれは当然です、世界を創造された最初の業に続く、神様の新しい創造の業だからです。よって、その記事を読む時に大事なことは、その出来事を私たちの知恵で解明しようとするのではなく、その記事から聞くこと、神様がその出来事に込めて下さった私たちへの恵みのメッセージを聞き取ることです。

2 この世界の現実には悲観するなかれ。神様は世界を見捨てられない。

第一に注目したいことは、神様がこの世界のただ中に救い主をお送り下さったということです。「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった」(1)。ヘロデ大王と呼ばれた人物は残虐極まりない王でした。彼によって多くの人が苦しめられていたのです。その中に神様が御子を送って下さったということは、どんなに人間の罪に満ちた世界であっても、神様はこの世界を見捨てられないということです。

3 自分の罪を忘れてはならない。その罪をも赦して下さる神様。

「それなら、神様はヘロデ王を滅ぼしたらいいではないか」と言う人がいます。しかし、罪ある者を滅ぼせと神様に言う人は、自分も滅ぼされることを知らなければなりません(ガラテヤ 5;3)。しかし、この神様が送られた救い主を追って行く中で、どんな人間をもご自分の方に向き直させ(回心)、新たに生きる道を用意して下さっている神様であることを知らされて行くのです。この世界に私たちが生きていく希望の根拠は、私たちの中にはなく、この神様の中にあるのです！

4 聖書は神様の恵みの宝庫。この神様の御言葉に聞いて生きよう！

御子を小さな町に誕生させ(6)、異邦人を選ばれ(1)、素直に神様の導きを信じる人を守り導かれる神様です(2,9)。彼らもまたできる限り精一杯の感謝を神様に表します(11)。その時にまた神様は別の導き、別の道を与えてくださるのです(12)。「このように生きていけばいいのだよ」、そう今の私たちにも呼び掛けて下さっているのです。そして、正しくその道を行くために、神様は聖書と教会を与えて下さったのです。